

第 40 回山形県動物愛護フェスティバルの実施結果について

1 開催日時

令和 5 年 9 月 30 日（土）10:00～14:00

2 開催場所

文翔館（山形市旅籠町 3 - 4 - 51）

3 イベントスタッフ

実行委員 7 名、県獣医師会 11 名、小田島商事株式会社 2 名、日本全薬工業株式会社 1 名、MPアグロ株式会社 2 名、動物愛護推進協議会委員・動物愛護推進員・動物愛護ボランティア計 30 名、山形大学ボランティア 8 名、細野警察犬訓練所 3 名、県警 1 名、株式会社ガッツ 2 名、各保健所 13 名、食品安全衛生課 6 名、山形市・山形市動物愛護推進員 8 名、計 94 名

4 表彰者

動物愛護優良飼養者 3 名、ペット写真コンテスト表彰者 8 名

5 開催結果

- ・ 延べ来場者は、推定 1,600 名であった。
- ・ ペット同伴の来場者が多く見られた。

6 各イベント会場の来場者数（推定）

イベント名	来場者数
表彰式	60 人
ペット防災実演	40 人
警察犬の実演、ふれあい	100 人
ケージでじっと選手権	100 人
マイクロチップ無料装着・ペット健康相談	38 人
獣医師体験	50 人
ペット用品展示	150 人
ペット飼い方相談、お手入れ相談	5 人
動物愛護ボランティア譲渡対象犬猫の写真展示	100 人
ペット写真コンテスト	200 人
犬猫譲渡事業啓発	100 人
飼い主のいない猫対策パネル展示・DVD上映	150 人
獣医師職場紹介展示	50 人
人とペットの防災対策展示	150 人
迷子札作成・塗り絵	150 人
動物愛護教室	7 人
クイズラリー	150 人

7 各イベントスタッフ等からの主な意見

○ペット防災実演

- ・説明が上手く、動物を飼っている方が聞くと、興味を惹かれる内容だったと思うが、犬を連れていない方は立ち止まってもらえず集客が難しかった。
- ・10キロのリュックやケージを持ったりすることで、参加者から「思ったより重い」「複数飼っているので一人では無理だ」などの感想を聞かれ、避難時のイメージが出来たと思われた。
- ・次回以降は、実際にペット避難所開設などの演習を、避難所を開設する山形市と合同でやってみてはどうか。

○動物愛護教室

- ・来場者から、資料の内容も説明も分かりやすいと言われた。
- ・動物愛護教室のみ、他イベント会場から離れていたためか想定よりも来場者が少なかった。イベント間の距離感が近いと、興味本位で足を運ぶ人がいると思う。

○ペットお手入れ相談

- ・お二人が相談に来られた。イベントのチラシを渡していたり、他のブースの皆様と交流したりしていた。

○迷子札作成、クイズラリー、ぬり絵

- ・迷子札を作成されている方が、ご自身の飼い犬、猫に似合う色を考えながら作成している姿が印象的でした。

○犬、猫譲渡対象関係

- ・譲渡コーナーに関心を持つ人は多かったが、実際に欲しいという感想はなかった。

○その他

- ・現在犬猫を飼っている方が来場しているように見受けられた。また、子供の来場が少ないうえだった。
- ・犬猫を飼っていない方にも参加してもらえるアイデアが必要。
- ・マルシェなどがあってお買い物が出来たりすると、もっと人が集まるのでは。
- ・食事的なものがあればもっと賑やかになる。
- ・子供が参加できるイベントを考えてほしい。
- ・来場者を増やすために、文翔館にこだわらず、もっと駐車場が近く広い県の施設での開催を検討してほしい。
- ・以前は譲渡会も同時開催されていた。掲示物を見るより、実物のかわいらしさを身近に感じていただいた方が、里親さんになっていただける可能性が高い。
- ・保健所で収容できず、地域に溢れた保護猫の「生体あり」の里親募集の場を提供していただきたい。
- ・ボランティアの意見を事前に聞き取り、実行委員会で反映させていただきたい。
- ・保健所職員が、管轄の相談を受ける窓口を設置していただきたい。地域猫について相談希望の方が来場されていた。
- ・準備時間に対して、開催時間が短い。(毎回)
- ・各保健所の活動報告や対応事例を展示していただきたい。
- ・文翔館という素敵な場所で行うのに、芝生の上の尿はそのままで不衛生。本当なら水をかけて薄めるなど、しっかりと飼い主さんへのマナー理解を啓発するのも必要。
- ・民間の組織と協力して、飼い主さんに深い関心を持ってもらい開催していかないと、全体の向上につながらないと思う。
- ・各団体と協力して、会場を賑やかに出来て良かった。